

父母も  
その父母も  
吾が身なり  
われを愛して  
我れを敬せよ  
二宮尊徳

# 實相寺 花園会報

令和三年  
八月一日発行  
発行所  
臨濟宗妙心寺派  
陽明山 實相寺  
實相寺花園会  
〒761-0450  
高松市三谷町  
1811番地1  
TEL087-889-3838  
編集発行人  
山本文匡  
<https://www.jissouji.net>

第148号

## お寺の掲示版

大意「父母もその父母も我が身の中に在る。両親祖父母を愛するのなら我が身を愛し、両親祖父母を敬ったように自分自身を敬うがよい。けして自己を粗末にしてはならない。」

『道歌教訓和歌辞典』

お盆にはご先祖様が帰ってくると言われますが、実はいつも共生きなのかも知れません。仏教的な人間の尊さとは「自分の命は、けして自分一人だけの命ではない」という気づきが根底にあります。

## 外灯修理・整備完了しました

6月の花園会総会で承認頂いた境内外灯修理ですが、7月中旬に工事が完了しました。特に昨年拡幅工事を実施した入口は、長年水銀灯が故障したままとなっていました。今回LED照明に交換したところ、以前より広範囲に明るくなりました。

また以前は本堂横から階段付近まで、



工事用の簡易ポール3本に投光器を2基ずつ設置して上から照らしていましたが、樹木で光が遮られたり、強風で配線が断線したりしたので、今回本堂前は足元灯2基、石段は地藏堂横にセンサー式一基を設置し対応しました。おかげさまで、ご覧のように大変明るくなり、夜の来客にも不安がなくなりました。有難うございました。

日供講について(続報)

先月号でお伝えした通り、7月4日開催の花園会役員会でも「日供講について」役員各位と再度議論致しましたが、結論を先に言えば、何も決めることができませんでした。

当初、住職の個人的意見としては、総会で「月額3千円では負担が大きいですので、複数の金額を選べるようにしたい」との要望もあり、その後、お参りに行った先の会員さんから「護持積立金同様、一口千円で原則3口以上でお願いしてはどうか?」とのアドバイスも頂いた為、それも止むなしと、修正案としてその旨提案しました。しかし、出席者9名全員にご意見を頂きましたが、そもそも日供講の趣旨に違和感のある方や理解は出来るが何

か物足りない、といったご意見もあり採決には至りませんでした。

勿論、現況のままでは財政が厳しいので、将来のためにも実施するべき等の賛成意見も複数ありましたが、役員全員の理解も得られないのに、物事を進めるのは拙速に感じましたので、あらためて「日供講」の趣旨をご説明して、棚経の時にでも、皆様のご意見を頂戴したいと考えています。

「前提として」

1. そもそも現在の施設規模が檀信徒数(収入)に見合っていない。  
今更言っても仕方のないことですが、現在の敷地建物は、大体300軒以上は檀家があるお寺の規模です。

2. 後継者は未定です。

禅宗は本来世襲制ではありませんし、

私は息子達の人生を尊重したいと思いません。何卒ご理解下さい。

こうした中、私に与えられた課題が、「後継者を見つけて、寺業を継続することです。」

何はともあれ、経済的な基盤を強化しないと、維持管理もままならないですし、少子化で引く手数多の中、後継者を望むべくもありません。

一方で高齢化や家族形態の変化などで、葬儀や仏事に係る支出は負担が増し減少傾向です。十年ほど前から葬儀も導師一人ですし、今後、以前のような月参りや葬儀後七日毎のお参りを復活することは難しいでしょう。

「ではどうするか?」と私なりに考えた結果が、「日供講」でした。江戸時代頃から毎日お仏飯をお供えて寺

社を護持する講があったようですが、現代的に言えばお寺のサブスクです。

毎月定額のお供えを納めて頂く代わりに、葬儀や法事ではお布施の心配は不要ですよ、というのが趣旨でした。

近年では、近くに息子家族が暮らしていて老後の面倒は見てくれる、というご家庭はごく稀です。でも誰でもいつかは亡くなりますし、ご夫婦二人で暮らしていても、最後は必ず一人です。その時がどういう状況であっても、「日供講」に入っていれば、最後は必ずお寺で葬儀をしてくれる。お墓がなくとも無縫塔で永代供養してくれる、というのは一定の需要があるのではないかと考えた。棚経では余り時間もありませんが、皆様の率直なご意見をお願いします。